

道具に関する部首

𠂇 弓 𠂇 矢 𠂇 刀 (弓)
 𠂇 戈 𠂇 舟 𠂇 車

弓は、弓の形を象った象形字です。音はキウです。

引は、引き伸ばす意味の丨と弓との会意字で、“弓をひく”のが本義です。また、弓と矢を並べたものと見てもよいと思います。転じて、広く“ひく”意味に用います。音はイン。引力。延引。引退。

弔は、古い形は弓とイとでできており、弓と人の会意字です。昔は死体を葬ると、鳥や獣が荒らしにきました。そこで死者を弔う人は弓を持ってこれを追い払いました。人は弓を持って“とむらう”のです。

弦は、糸の意味の玄と弓との会意形声字で、“弓に張る糸”、つまり“つる”のことです。楽器に張るのは「絃」ですが、今では、弦で兼用させています。弦月(半月)。管弦楽。

張は、脹れる意味の長と弓との会意形声字で、“弓をいっぱい

引く”のが本義の字です。転じて、弓や琴に弦をかけることを“張る”とも言います。拡張。誇張。

弾は、弦のはじく音を表わす単と弓の形声字で、“弦をはじく”ことを表わしています。また、単は丸と同じ韻なので、弓と丸との会意字と見ることもできます。この場合は、石弓に用いる“たま”が本義です。今では、前者の意味の「弾力」「弹琴」、後者の意味の「弾丸」「砲弾」、どちらもよく使われています。昔の砲は石弓で、砲弾は石でした。

弧は、半月のように曲がった形の弓と瓜との会意形声字で、音は瓜の変化したコです。数学で、円周の一部を弧と言いますが、そのような形を表わす字です。「弧形」は、言葉としては「瓜形(うり形)」の意味で、文字として「弓形」の意味を加えたのです。

弘は、肱の象形のムと弓との会意形声字で、“弓を力いっぱい引っ張る”ことを表わした字です。弓の“ひろくはる”のが本義で、“ひろまる”“ひろめる”の意味に使われています。漢音はコウ、呉音はグです。弘道。弘布。弘通。

強は、弘と虫との形声字で、弘と呼ぶ虫の名が本義の字です。音

は弘がなまって、キョウ。古くから同音の「疆」の仮借字として“つよい”という意味に用いられています。

疆は、“つよい弓”が本義の字で、広く“つよい”という意味に用いられ、転じて、“努力”の意味にも使われていましたが、同音の「強」が代用されるようになって、あまり使われなくなりました。自疆やまず。

矢

矢は、弓に使う矢の象形字です。矢は、昔は最も速いものだったので、部首としては“はやい”という意味によく使われます。光陰矢のごとし。

知は、矢のように速く、言葉が口から出てくる、という意味で、矢と口^シの会意形声字です。音は矢がなまったチです。速く言えるということは、何でもよく知っていざからである、というので、“しる”といふ意味を表わしました。

短は、小さい意味の豆と矢との会意形声字で、“小さい矢”、つまり“みじかい”という意味を表わしたものです。音は豆^{トウ}が変化してタンです。短気。短所。

矯は、先の曲がっている意味の喬^{キョウ}と矢の会意形声字で、“曲がった矢をためる”という意味の字です。矯正。

医は、箱の意味の匸と矢との会意字で、“矢を入れる器具(ゆぎ)”が本義の字です。今では■の意味に使われています。

醫は、医と爿と酉の会意字です。酉は薬用酒。薬を用いて病気を退治する、という意味の字です。医も■も武器で、病気を退治するという意味を表わしています。

刀

刀は、“かたな”の形を象った象形字です。片刃の彎曲したものです。音はトウ。

刃は、刀の切るところ、つまり“は”を示した指事字です。音は、漢音ジン、呉音ニン。白刃。刃傷。

分は、刀で物を二つに切り離した形を表わした、刀と八との会意字です。“わける”こと。転じて、“わかれる”こと。分配。分裂また、「身分」「気分」という使い方もあります。

切は、切り落とす時の音を表わす七と刀との形声字で、“刀で物を

きる”ことを表わした字です。音は七が変化してセツ、呉音はサイ。

セツダン イツサイ
切断。一切。

刈は、草をかる意味の又と刀との会意形声字です。刈は俗字です。

刊は、突き刺す意味の干と刀との会意形声字です。昔、版木に文字をほりきざんで印刷したので、“書物を出版する”ことを刊という字で表わしました。刊行。月刊。

刑は、开(ケイ)と刀との形声字で、“斬刑”の意味の字です。开という発音の言葉には、「形」「型」があり、“きちんと整ったタイプ”を意味しているようです。従って、刑は、“法に照らして処断する”という意味がその発音から汲み取れます。刑法。刑罰。

初は、衣と刀との会意字です。衣類は、布を刀で裁断することから始まるので、“はじめ”の意味を衣と刀とで表わしました。最初。初期。

別は、冎の変形した另と刀との会意字で、“骨から肉を切り離す”という意味の字で、“わける”が本義の字です(P163 列と同義)。今では、“人とわかれる”意味に使われます。区別。別離。また、「別室」「別状」

などの使い方もあります。

刺は、“とげ(冎)のある木”の意味の束と刀との会意形声字です。“とげでさすように刀でさす”という意味で、“さす”ことを表わしました。セキという音もあります。

剛は、綱のもつ“大きい”“太い”などの意味の岡と刀との会意形声字で、“大きくてがっしりとした刀”という意味の字です。転じて“つよい”“かたい”などの意味に用いられます。剛勇。剛胆。

劑は、調える意味の齊と刀との会意形声字です。医者のことを「刀圭家」と言いますが、薬を調合するさじを“刀圭”というのです。つまり、“さじで薬を調合する”ことが劑の本義で、今は、“調合された薬”の意味に用いられています。調劑。藥劑。強心劑。

割は、傷つけそこなう意味の害と刀との会意形声字です。“刀で傷つける”という意味の字で、“さく”“わかつ”こと。割讓。分割・音は害がつまってカツ。

剩は、“切っては上へ上へと乗せる”意味の字で、物の豊富にあることを表わした、乗と刀との会意形声字です。“あまる”という意味に使

われます。余剰。過剰。

前は、古体は𠂔です。“岸につないである舟のともづなを切る”という意味の字で、“舟の前進すること”を表わした字です。舟月の月と、止める意味の 止 と 刂 との会意字です。

到は、いたる意味の至と刀との会意形声字で、“刀が相手の体に至る”という意味で、“とどく”ことを表わした字です。到着。到達。用意周到。

制は、朱と同じく木の象形である 𣎵 と 刂 との会意字で、“木を切つて物を作る”という意味の字。音はセイ。“たちきる”“つくる”が本義です。制裁。制作。「制限」「制御」は「掣」の意味の仮借です。

掣は、“制作しているのを手でおさえる”ことを表わした字で、制と手との会意形声字です。掣肘。牽掣。

刷は、人の意味の戸と布と刀の会意字で、“人が布と刀とを持って仕事をする”ことを表わした字です。汚れた所をふき、落ちない所は削り、“きれいにする”ことが本義です。刷新。転じて“こする”意味。

刷子(ぶらし)。刷毛(はけ)。「印刷」も“こする”意味です。

券は、古体が𠂔で、二つに分けて、それぞれに所持する“わりふ”を表わした字です。相互の約束として取りかわすものの名称に使われます。証券。株券。乗車券。

刻は、草の根の象形である 亥 と 刀 との会意字で、薬草の根を“きざむ”ことを表わした字です。「彫刻」「時刻」の意味から転じて、「深刻」「苛刻(酷)」とも使われます。

𠂔 戈

戈は、いくさ道具の“ほこ”を象った象形字で、武器の総称として用いられ、また、“戦争”の意味にも使われます。「干戈」は、武器の総称であり、また戦争という意味でもあります。

武は、戈と止との会意字です。“戦争を防止するもの”という意味の字です。つまり、武とは、相手を倒すためのものではなくて、相手の侵略を未然に防ぐためのものだということです。中共の核兵器も、使うためのものではないという、武の本義をぜひ銘記してもらいたいものです。

戰は単と戈との形声字で、“武器をもってたたかう”という意味の字です。戦争は恐ろしいものですから、“恐れおののく”という意味にも

使われます。戦々兢々。

戯は、猛獣を意味する虞の略字の虚と戈との会意字で、“武器をもって猛獣をあやつる”という意味の字です。“猛獣つかいの芝居”が本義で、“たわむれる”意味に使われます。戯曲。演戯。遊戯。

戍は、人^亠と戈との会意字で、“武器を持つ人”が本義です。転じて、“まもる”意味になります。戍卒。衛戍。昔、陸軍病院のことを衛戍病院と言いました。

成は、戈と同じ意味の戊と丁との会意形声字です。丁は、釘の象形で、テイの音は、釘を打つ音を表わしたものです。成は、“武器を揮って侵略者を平らげる”こと。成功。転じて“なしとげる”という意味。

音は丁^{テイ}が変化してセイ。呉音はジョウ^{ジョウジュ}。成就。

我は、古体は^ナで、先が三つに分かれたほこの象形です。“われ”の用法は仮借。“わが身を守るもの”であるから、転じて“われ”を表わしたとする説もあります。

舟

舟は、舟の形を象った象形字ですが、今の字形は、たてになっています。音はシュウ。

船は、沿の意味の台^{エン}と舟との会意形声字です。“流れに沿って下る舟”という意味の字です。昔、函谷関以東では、流れがゆるやかで上り下りできたので、舟と呼び、函谷関以西では急流のため、下りにしか使えなかったのが、船と呼んだと言います。音は舟 syu と台 en とでセン sen になりました。

艇は艇(丸木)の意味の廷^{テイ}と舟との会意形声字で、“丸木舟”という意味の字です。転じて、“細長い形の小舟”を言います。短艇(ボート)。潜水艇。

「艦」「舶」「航」「艙」は、それぞれ第一部の傍の項で説明されています。

車


車は、二輪車の形を象った象形字です。音はシャです。

輛は、二つの意味の兩^{リョウ}と車との会意形声字です。車は車輪が二つあって一台だということで、“車一台”を表わした字です。また、車を数える時に「一輛・二輛」と言います。今では扁を省いて「両」で代用しています。

軒は、ふせぐ意味の干^{カン}と車^ㄨとの会意形声字です。“戦車”が本義の字です。「戎軒(戦車)」。矢を防ぐように覆いが設けられていて、転じて“覆い”の意味になり、“家ののき”の意味に使われるようになりました。太夫以上の身分の者の乗る車を軒と言うのは、日光や雨風を防ぐ“覆い”のある車という意味です。

軟は、欠^{カン}と車^ㄨの形声字で、車の震動をやわらげるため、車輪に蒲をまきつけた車のことです。転じて、物の“やわらかい”ことを表わすのに使われます。軟骨。

軸は、車のじく(●)の象形である由^ㄨと車^ㄨとの会意字です。“車の心棒”です。転じて「筆の軸」「マッチの軸」「掛軸」などとも使われます。音は柚^{ジツ}。

由は、で、果物と木とを結ぶ部分を表わした字です。これによって木から栄養を受けて成熟するので、“たよる”“よる”という意味を表わしました。由来。理由。漢音はユウ、呉音はユ。

転は、轉が本字。回る意味の旋^{セン}の仮借である專^{セン}と車^ㄨとの形声字で、“車の回る”ことを表わした字です。転じて、“場所が移る”意味に使わ

れます。回転。移転。転任。

較は、組み合わせる意味の交^{コウ}と車^ㄨとの会意形声字です。車の乗る所に、つかまえるために設けられた横木のことです。左右にあることから“比べる”という意味に使われるようになりました。音は交、またはカク^{コウチョウ ヒカク}。較著。比較。

軍は、古体の胤^ㄨが示す通り、戦車を中心に兵が行動するのが、軍の常だったので、車を囲む形で、軍隊を表わしました。

軌は車^ㄨと九^ㄨとの形声字で、“車輪の通ったあと”“わだち”のことです。このわだちの間隔がいつもきちんと正しいところから、「軌範」という使い方が生まれました。音は九^ㄨが変化してキとなります。「軌」は、同音同義の字です。

轄は、車^ㄨと害^{ガイ}との形声字で、車輪が軸からはずれて災害を起こさないように、車軸にはめ込む“くさび”が本義の字です。転じて、広く、“災害を起こさぬよう取り締まる”ことに使います。統轄。管轄。